

平成 30 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

平成 30 年 月 日提出

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月20日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1) 1単位あたりの年間授業時間が確保できるように、授業時間と教育課程を見直す。</p> <p>(2) 自然科学コースが実践してきた様々な取組を、今後も特色ある学習活動として活かしていく。</p> <p>(3) ICT機器を利活用しながら生徒主体の学習活動を取り入れた授業づくりを学校全体で実践し、その成果を積極的に発信する。</p> <p>(4) 多様な学習課題を提供して家庭での学習習慣の定着を図るとともに、自ら学ぶことの楽しさや喜びを経験させる。</p>	<p>(1) 学習指導要領の改訂や大学入試改革に向けて、教育課程の検討を行なう。</p> <p>(2) 自然科学に関する行事を学校全体の取組として実施するとともに、学習活動における位置付けを検討する。</p> <p>(3) 情報活用推進委員会を中心に推進し、BYOD等を利活用した組織的な授業改善を行なう。</p> <p>(4) 主体的な学びの確立を目指し、授業外での学習習慣の定着を図る。</p>	<p>(1) 学習効果を高める教育課程について、教育内容や時間の適切な配分等の側面から検討する。</p> <p>(2) 自然科学に関する行事について整理し、総合的な学習の時間等、学習活動における位置付けを検討する。</p> <p>(3) 情報活用推進委員会を中心に研究を進め、校内での協議会をとあして、組織的にBYOD等のICT利活用を推進していく。</p> <p>(4) 学習習慣をつけるべき1学年を中心に、オンライン学習支援システム等を利活用し、学習習慣の定着を図る。</p>	<p>(1) 学習効果を高める教育課程について検討することができたか。</p> <p>(2) 総合的な学習の時間等の学習活動において、自然科学に関する行事の位置付けを計画できたか。</p> <p>(3) 組織的にICT利活用を推進し、授業改善につなげることができたか。</p> <p>(4) 主体的に学ぶ生徒を増やし、家庭学習など授業外での学習習慣の定着を図ることができたか。</p>					
2 生徒指導・支援	<p>(1) 自ら進んで規律やマナーを遵守する心を育むとともに、TP0を踏まえた行動や服装を促す。</p> <p>(2) 生徒や保護者が何でも安心して相談できる校内体制をつくる。</p> <p>(3) 学校行事や部活動を通して、生徒の社会性を育み、豊かな人間関係を構築する力を培う。</p>	<p>(1) 「過ごしやすい学校生活」を送るための社会生活上での規範意識やマナーを生徒に身につけさせる。健康で心豊かな人間性を養い、思いやりのある友人関係の構築を図る。</p> <p>(2) 教育相談体制を確立し、報告、連絡、相談が速やかになされるようにする。</p> <p>(3) 生徒が自主的・主体的に企画・運営に取り組むよう支援する。耐震工事のため多くの制約はあるが、創意工夫、協力し克服することが、学校生活をより充実させ活気あるものになるよう支援する。</p>	<p>(1) 学期の初めや終わり、学校行事などの機会をとらえ、生徒のルールやマナーに対する意識を喚起し、生徒が自ら正しく判断し行動できるよう支援を行う。挨拶の励行やいじめ防止教育などを通じ、他人を思いやる気持ちを育て、良好な人間関係の構築を図る。</p> <p>(2) 校内における教育相談体制を確立し、連携して生徒の指導、支援に当たる。よりの確かな対応ができるようスクールカウンセラーとの連携を強化する。</p> <p>(3) 耐震工事のため多くの制約がある中、創意工夫し生徒が主体となって企画・運営する学校行事や部活動、HR活動を支援する。また、その中からやりがいや達成感を感じられるよう支援する。</p>	<p>(1) 生徒が正しい判断、行動ができる支援を行えたか。生徒の挨拶やいじめ防止に対する意識の向上が見られるようになったか。交通安全に対する意識を高めることができたか。生徒の情報モラルに対する意識を育てられたか。</p> <p>(2) 心の悩みを抱える生徒・支援を必要とする生徒などに対応できる相談体制ができたか。ケース会議などを開催し、情報の共有化が行われたか。</p> <p>(3) 耐震工事による制約に対し、生徒が主体となって創意工夫し、学校行事や部活動、HR活動を企画・運営することができたか。</p>					

平成 30 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

平成 30 年 月 日提出

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月20日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月6日実施)	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	(1)自分が本当にやりたいことを実現しようとする意欲ある生徒を育成する。 (2)自分の興味・関心・適性・学力など、生徒が自己理解を深めさせる取組を充実させる。	(1・2)自分の興味・関心・適性・学力など、生徒に自己理解を深めさせる取組を充実させる。 (2)1年生は大学入学共通テストに向けた対策をとる。	(1・2)・1年生は自己理解を深めるための探求活動として研究レポートを提出する他に人Foraとの連携を図り、アクティブラーニングによる学部・学科選択の指標とする。GTECを全員受験。明治大学との高大連携プログラムに参加する。 ・2年生はオープンキャンパスと大学教員による系統別ガイダンスにより志望校を明確にする。 ・オープンキャンパス、インターンシップによる進路決定。夏期補習・冬期補習を充実させ、塾に頼らない学力向上を目指す。	(1・2)計画通り外部団体と連携を図り事業を行えたか。 将来のキャリアを見据えた進路選択・進路目標を生徒が主体的に設定できたか。 夏期補習・冬期補習を生徒のニーズのある講座が開講できたか。				
4	地域等との協働	(1)生徒に地域の一員であることの自覚を促し、生徒・保護者・教職員・地域の間に関係を築き、学校と地域の絆を深める。 (2)学校づくりに関する情報を地域に向けて積極的に発信する。	(1)生徒に部活動の発表や音楽交流、清掃などを通し、地域や社会への貢献について考えさせ、地域の一員としての自覚を持たせる。 (2)学校づくりの取組や学校行事や学校説明会の予定、生徒の部活動への取り組み等を、生徒・保護者・受検生を含めた地域社会に対してわかりやすく情報発信する。	(1)挨拶や清掃活動、音楽交流における地域貢献の意義をHRなどで伝えることで、地域の一員として活動していることを自覚できるようにする。 (2)学校ホームページを積極的に活用し、個人でも学校見学の申込等に利用できるようにするとともに、生徒・保護者・受検生・地域のニーズに合った情報を迅速に提供する。	(1)HRや部活動において地域の一員として自覚できるよう指導、支援できたか。 (2)学校ホームページでの情報発信が、必要なときにできたか。学校説明会等の申込みに、学校ホームページやが活用されたか。生田高校を受検する生徒や保護者に、生田の特色が伝わったか。				
5	学校管理 学校運営	(1)保護者・学校評議員・地域の方の意見を幅広く取り入れ、開かれた学校づくりを推進する。 (2)生徒が充実した学校生活を送れるように、安全安心な学校づくりを推進する。	(2)50周年を迎え、これからの安全安心な学校づくりを推進する。そのため、改修後の教室配置を一足制も含め検討し、充実した学校生活が遅れるよう計画する。また、校舎への引越しを円滑に行う。	(2)環境問題や環境美化に対する生徒の自主的、日常的な取組の推進をする。また、防災訓練などを通して生徒・教職員の防災意識を向上させる。耐震工事に伴い、改修後の教室配置や一足制などの対応などを検討実施する。また、校舎への移動などを安全、円滑に実施できるよう計画を立てる。	(2)清掃活動や学校行事等で環境問題や環境美化に対する生徒の自主的、日常的な取組を推進することができたか。改修後の教室配置や一足制などの計画・実施ができたか。校舎への移動などを安全、円滑に実施することができたか。				